『茶業緊急支援法案』提出趣旨

我が国において、お茶は、伝統と文化を育みながら国民の生活に深く浸透し、豊かで健康的な生活の実現に重要な役割を担っている。また、国内各地にお茶の産地が形成されており、地域の農業、特に条件不利地である中山間地域の重要な基幹作物であるとともに、加工・流通・販売に携わる者を含めると、茶業は地域経済・雇用確保の観点からも重要な産業となっている。加えて、お茶は、2011年に振興法（議員立法「お茶の振興に関する法律」）が制定されるほど重要視されている農作物であるが、その生産面積や生産者数は大きく減少を続けている。このような苦境の中、昨年来、コロナ禍によりお茶を取り巻く環境が深刻化している。

１．農業の中でも、特にコロナ被害が大きい茶業

昨年の茶業は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による小売店・飲食店の休業、お茶会等のイベントの中止、観光客の減少、冠婚葬祭の取り止め等に伴い、業務用や贈答用の販売が落ち込み、お茶の価格が低迷する等甚大な影響を被った。

政府は、新型コロナウイルス感染症対策として、国産農林水産物等販売促進緊急対策事業や高収益作物次期作支援交付金等の各種支援を行ったが、お茶については一番茶の価格低迷に伴い二番茶以降も低迷し、明確な回復が見られないままとなっている。

２．昨年度以上の経済支援を！

新茶の収穫が本格化しつつある中、新型コロナウイルス感染者数は全国で再び増加しており、今年も４月、５月の新茶シーズンを３度目の緊急事態宣言が直撃し、今年の茶業の先行きに、不安が高まっている。再び需要低下による販売及び価格の低迷やそれに伴う生産縮小が懸念され、影響を払拭するには昨年度以上の経済支援が求められる。

３．健康効果の研究や感染防止対策も支援

また、コロナ禍における国産茶葉の需要喚起のため、お茶の機能性成分に関するＰＲ、抹茶スイーツ向け等の新商品や新用途への利用等の需要拡大の取組を後押しするとともに、イベントにおける感染防止対策を支援する等、お茶の文化の振興に資する取組を促進することや、新型コロナウイルス感染症の予防効果に資するような健康効果を解明することも重要である。

よって、コロナ禍による茶業等への影響を緩和し、関係者に前向きに取り組んでもらうことが喫緊の課題であり、昨年以上に集中的に茶農家への生産支援、茶類小売・卸売業者への海外を含む販売支援、お茶に関するイベント等への感染防止対策支援を実施するとともに、お茶と新型コロナウイルス感染症との関連性についての調査研究を推進する必要がある。

このため、本法案を提出することとした。

（参考）茶業支援のための予算規模のイメージ

１．経営全体の支援（持続化給付金及び一時支援金を参考）

【想定予算額】

約１７５億円

内訳：持続化給付金１５０億円＋一時支援金２５億円
①給付額：200 又は 100 万円（持続化給付金）＋60 又は 30 万円（一時支援金）
②対象者：約１．４万経営体（茶農家）＋約８千事業所（小売業者等）
・茶農家は、Ｒ２農林業センサスの数値を用いて推定
・小売業者等は、茶類小売業・茶類卸売業者数（H26 商業統計の数値を使用）
③持続化給付金を受けた者の割合：５０％（仮定）
一時支援金を受けた者の割合：２８％（仮定）
※約 56%（全国に占める発令地域の人口割合）×50%（飲食店と直接・間接的な取引がある茶農家又は茶類小売業・茶類卸売業者の割合（仮定））

２．生産支援（高収益作物次期作支援交付金を参考）

【想定予算額】

約８９億円

①次期作支援交付金の予算額（Ｒ２年度）
242 億円（１次補正）＋1,343 億円（３次補正）＝1,585 億円
②うち茶農家の割合：５．６％
・次期作支援交付金対象作物の農業経営体数：約２５万経営体
・茶の経営体数：約１．４万経営体

３．販売支援（国産農林水産物等販売促進緊急対策事業を参考）

【想定予算額】

約４０億円

※同事業のうち、茶を対象とした事業への交付額を積算

４．感染症対策支援（経営継続補助金を参考）

【想定予算額】

約２０億円

①補助額５０万円
※同補助金のうち、感染防止対策への補助金額を使用（ただし、同事業は農林漁業者向け）
②対象者：約８千事業所
※茶のイベント開催事業者数が不明なため、茶類小売業・茶類卸売業者数（H26 商業統計の数値を使用）
③補助を受ける事業者の割合：５０％（仮定）

５．研究開発支援（農林水産研究推進事業を参考）

【想定予算額】

約３億円

※同事業（R3 予算約 22 億円）の７つのメニューのうちの１つが、日本の農産物の免疫機能等への効果検証等を行うアグリバイオ研究であり、同程度の予算として 22 億円の７分の１で計算。

合計：約３２７億円

（参考）茶業の厳しい状況

昨今の茶業は、新型コロナウイルス感染症及びそのまん延防止のための措置により、以下のような状況に見舞われている。

○小売店等における抹茶・緑茶の需要減少

緊急事態宣言等による、茶類の小売店やお茶を取扱う百貨店、日本料理をはじめとした飲食店の時短及び休業に加え、不要不急の移動が控えられたことによる国内観光客需要の減少により、特に業務用需要が落ち込んでいる。

○外国人観光客減少によるインバウンド需要の消失

昨年の訪日外国人数は、４月以降は前年同月比で約 98～99%の減少となっており、近年の訪日外国人が土産として茶葉を買う需要や、訪日外国人を見込んだ日本料理店におけるお茶の消費需要も消失している。

○冠婚葬祭の縮小による需要の減少

新型コロナウイルス感染症により、冠婚葬祭の開催規模や飲食を伴う会合が縮小されているが、特に葬儀については、香典返しに贈る茶の需要が減少している。

○茶道をはじめとした会合等の減少による消費の減少

コロナ禍により、抹茶については、お茶会やお稽古がほとんど中止となったことに伴い売り上げが減少した。また、緑茶についても、会合や面談、接客の機会の激減に伴い、売り上げも減少している。

○荒茶生産量の急激な減少

コロナ禍による需要減少や価格低迷を受けて、産地が二番茶以降の収穫を控えた影響により、昨年の荒茶の生産量は１５％も減少している。

○今年の茶の価格の低迷の懸念

昨年は、コロナ禍による需要の減少に伴い、静岡や京都で平成以降最安値となる等、価格が低迷した。茶は新茶を含む一番茶が最も高値で取引され、その価格を参考に、収穫時期の遅い二番茶、三番茶と安くなっていく。そのため、今後、新茶の収穫が本格化する中、今年も一番茶の価格が低迷した場合、仮にワクチン等により新型コロナウイルスの感染が落ち着いたとしても、二番茶以降のお茶の価格や生産が低迷し続けることが懸念される。

○荒茶生産量（令和２（2020）年）

69,800ｔ（前年比▲15%（▲11,900ｔ））（出所：農林水産省作物統計調査）

※コロナ禍による需要減少や価格低迷を受けて、産地が二番茶以降の収穫を控えた影響とされる。

○栽培面積（令和２（2020）年（概数））

39,100ha（前年比▲3.7%（▲1,500ha））（出所：農林水産省作物統計調査）

※コロナ禍により離農した場合、Ｒ３（2021）の栽培面積に影響があると思われるため、あくまでも参考値。

○一番茶の荒茶在庫量の割合（令和２（2020）年末時点）

約５%減少（前年比）（出所：農林水産省資料）

※Ｒ２年度補正予算事業（茶販売促進緊急対策事業）実施主体に対する調査結果のため、全体の傾向は不明。

○茶の輸出（令和２（2020）年）

約 162 億円（前年比＋11%、過去最高）（出所：農林水産省資料）

○茶農家の離農状況（データなし）

・静岡茶市場の内田社長は「現状の価格は採算が合わず、茶畑の耕作放棄が加速しかねない」と危機感を募らせる。（R2.7.14 日本経済新聞）

（参考）

令和２（2020）年の推定茶農家数：約１．４万経営体

平成 27（2015）年の茶農家数：約２万経営体

※コロナ禍により離農した場合、Ｒ３（2021）に影響があると思われるため、あくまでも参考値。なお、令和２年の数値は、農林水産省「農林業センサス」を基に推定。

○ペットボトルのお茶の国産茶葉の割合（データなし）

（参考）

輸入緑茶の比率（輸入量／国内生産量）：約５．６%（令和２（2020）年）

令和２（2020）年の緑茶の国内生産量：69,800ｔ

令和２（2020）年の緑茶の輸入量：3,917ｔ

（参考）茶業に関するデータ

※茶業に関する令和２年度の基本的な統計データは、まだ公表されていないため、以下の数値は、報道や一部の調査資料を基に作成している。

○価格（統計データ未公表（R3.4.15 時点）のため、報道から抜粋）

①令和２（2020）年産

※主産地で平成以降の最低水準（R2.8.7 日本農業新聞）。

・静岡県（一番茶）　1,760 円/kg（前年比▲ 5.6%）（R2.8.7 日本農業新聞）

・三重県（一番茶）　1,090 円/kg（前年比▲19.4%）（同上）

・鹿児島県（一番茶）1,346 円/kg（前年比▲14.6%）（同上）

・ＪＡ全農京都（一番茶）2,345 円/kg（前年比▲20.5%）（同上）

・鹿児島県（秋冬番茶？）平均 846 円/kg（前年比▲12.1%（▲116 円/kg））

（R3.1.7 日本農業新聞）

②令和３（2021）年産（※初取引は、ご祝儀相場も含まれるため、あくまでも参考値。）

・鹿児島県（新茶初取引）2,574 円/kg（前年比＋1.6%（＋139 円/kg））

（R3.4.6 日本農業新聞）

・静岡県（新茶初取引）4,207 円/kg（前年比－%（未開催）、前々年比▲49.2%）

参考値：2019 年 8,282 円/kg、2018 年 3,715 円/kg　（R3.4.15 日本農業新聞）

○需要

①業務用需要（データなし）

・ＰＲイベントの中止や小売店の休業が相次ぎ、贈答用や業務用の需要が伸び悩む。インバウンド（訪日外国人）消費も蒸発し、一番茶の取引価格は平成以降の最安値となった。（R2.7.14 日経新聞）

・３密回避のため冠婚葬祭も自粛が広がり、香典返しなどの需要も激減した。

（R2.11.1 日本農業新聞）

・宇治観光土産品組合の加盟業者は売り上げが例年の１～２割まで激減している。（R2.6.23 毎日新聞地方版）

②家庭用需要（令和２（2020）年）

・２人以上世帯当たりのリーフ茶年間消費量：827g（前年比＋4.6%）

・２人以上世帯当たりのリーフ茶年間支出額：3,817 円（前年比＋1.0%）

（出所：総務省家計調査）

※コロナ禍により巣ごもり需要が伸びたことが一因とされる。

○茶の売上額（令和２（2020）年）

・一番茶（４～５月）　静岡：▲20%、鹿児島：▲17%（前年比）

・二番茶（６～７月）　静岡：▲27%、鹿児島：▲42%（前年比）

・秋冬番茶　静岡：▲19%、鹿児島：▲29%（前年比）

（出所：農林水産省資料）